

厚生文教委員会報告書

平成28年3月10日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

委員長 鵜 川 晃 匠

平成28年3月10日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

<所管事務調査>

- 陰山メソッドについて
- 学校再編整備計画について
- 学力向上について

<報告事項>

- 教育委員会事務局の機構改革について（教育部長）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
報告事項	2
所管事務調査	3
閉会	8

厚生文教委員会記録

招集日時	平成28年3月10日（木）	厚生文教分科会閉会后		
開議・閉議	午後2時42分	開会　～	午後3時13分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	会期中（第1回定例会）の開催		
出席委員	委員長	鵜川晃匠	副委員長	星野和也
	委員	橋本逸夫		津島　誠
		守井秀龍		立川　茂
		山本　成		森本洋子
欠席委員		なし		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	田口健作		
	委員外議員	なし		
	紹介議員	なし		
	参考人	なし		
説明員	教育長	杉浦俊太郎	教育部長	谷本隆二
	教育総務課長	芳田　猛	学校教育課長	磯本宏幸
	生涯学習課長	大道健一		
傍聴者	議員	石原和人		
	報道関係	山陽新聞		
	一般傍聴	なし		
審査記録	次のとおり			

午後2時42分 開会

○鵜川委員長 ただいまの御出席は8名でございます。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

***** 報告事項 *****

本日の委員会は、所管事務調査に先立ち、執行部からの報告事項をお受けいたします。

それでは、執行部より順次報告願います。

○谷本教育部長 それでは、機構改革関係について、お手元の資料をごらんいただきたいと思えます。

市長部局の組織機構改革に連動する形で、総合計画の着実な推進と新たな行政課題に的確に対処するため、また教育大綱にうたわれた取り組み項目、それに対応した教育ロードマップに沿った事業推進を図るため、教育委員会の組織機構を変更することといたしております。

まず1点目ですが、教育部教育総務課に教育の未来創造係を新設いたします。内容といたしましては、近年の教育を取り巻く著しい環境変化などを踏まえ、教育行政の総合的な企画及び調整を行うため、あわせて、教育ロードマップの進捗管理、中・長期の調査研究もここで担いたいと考えております。

2点目、教育部の配下に小中一貫教育推進課を新設いたします。その下に、小中一貫教育推進係を置きます。これは、現行の学校教育課小中一貫校推進係から移設して、係名を変更するものでございます。小学校、中学校が連携して、一貫した教育目標の達成を目指す小中一貫教育を推進するため、新設するものでございます。

それから3点目、教育部生涯学習課にまなび塾係を新設いたします。備前市教育協力隊との連携を図り、子供たちに備前まなび塾をこれまで以上の学びの場となるよう新設するものでございます。

以上、大きく3点の機構改革の御報告でございます。

○鵜川委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

以上で報告が終わりました。

報告事項で御質疑があればお受けいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、執行部からの報告事項を終わります。

それでは、教育長が入場されますので、その間暫時休憩いたします。

午後2時45分 休憩

午後2時47分 再開

○鵜川委員長 それでは、委員会を再開いたします。

杉浦教育長におかれましては、御苦労さまです。

ただいまから所管事務調査に入ります。

発言を希望される方は挙手の上、お願いをいたします。

○津島委員 陰山メソッドについてですが、教育長は陰山英男氏を尊敬されとんですか。

○杉浦教育長 尊敬というか、信頼しております。

○津島委員 何かテレビかメディアか、何で知り合うたのかな。

○杉浦教育長 そもそも岡山大学の御出身ということもありまして、教育界だけではなく、さまざまな、岡山県にとっては大変有名な方でありますので、私も前職の時代から存じ上げているということです。

○津島委員 スピード感のあるうちの市長も大変気に入ってるわけですね。

○杉浦教育長 市長とも話をしまして、ぜひ陰山先生の力をかりたいと、私から市長に御相談を申し上げました。

○津島委員 反復練習の徹底や短時間集中、生活習慣の改善と手法をうたわれとりますけど、今までの学校の先生の教え方とちょっと格好が変わるわけです。先生方の反応というのはどうですか。

○杉浦教育長 それこそ全員のお話を伺ったわけではありませんけれども、現場の先生方の中には、既に陰山先生の方式を取り入れて授業をしている先生もいらっしゃいますし、指導を受けてみたいとおっしゃる方もいらっしゃいます。現場にも、やはり期待感があるものと考えております。

○津島委員 先ほどの分科会で、陰山メソッドは予算が200万円必要ですと、家庭の協力を図るのが、1番、早く寝て、早く起きて、朝ごはんをきちんと食べる。これ普通の常識です。教職員の意識を高めるための教職員対象の講演会を実施されとんですけど、教育長も参加されたと思えますけど、教職員の意識を高めるためのどういう話がありましたか。

○杉浦教育長 簡単に言うと、当たり前のことを当たり前にやるということに尽きるんです。しかも、今の学力向上の一番の課題というのが、どうしても定着をしないと。学力テストの結果も、基礎はまあまあ定着をしているんだけど、応用問題になると太刀打ちできないという中では、やはり定着を図るという助けに一番なるのではないかというふうに考えました。そういうお話をいただきました。

○津島委員 教職員のことで、県の教育長がぺこぺこ陳謝されよるテレビを見とりますけど、備前市にはそれだけはないように、よく気をつけて指導してください。お願いします。

○杉浦教育長 やはり何か教員の皆さんの間に、そういうモチベーションの下がる要因がないように、現場ともきちんと対話をしながらやっていきたいと。事件が起こるたびに肝に銘じてるんですが、今後も肝に銘じてまいります。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○立川委員 学校再編ということで、今、小中一貫校をやろうということで、23年当時でしたか、再編整備基本計画、前期が23年から27年、後期が28年から32年ですか、先般いただきましたロードマップによりますと、大体ここで区切って、後期の分も中学校区を単位とした学校再編成、小中一貫ということですが、この計画はちょっと棚上げという解釈でよろしいでしょうか。それと、今後の展望を。

○杉浦教育長 実は、時代状況もかなり変わってきております。それと、私も地域を回らせていただいて、地域の方々への学校の存在というか、それがいかに大きいかということがわかってきましたので、棚上げも含めて、あり方をもう一度地域の皆さんと議論をしたいというスタンスです。

○立川委員 ということは、この計画はちょっととめるよと。今度、小中一貫のほうの問題に切りかえますよという解釈で、皆さんに御説明していいんでしょうか。

○杉浦教育長 とめるかどうかについても、済いません。正直なところ、これから地域の皆さんと御相談して決めさせていただきたいということです。

○立川委員 ロードマップで見ると、2015年、日生南小学校、最後の1年をということで、3月20日で終わると。それから、神根、三国は最終判断で一応決まった。平成28年に神根と三国は閉校です。その後切れて、いわゆる小中一貫の再編計画が出てくるんで、先ほど言いましたような整備基本計画は残されていないんですが、それでもそのまま、それはそれで隠しているよという解釈ですか。

○杉浦教育長 隠しているというわけではないんですが、整備基本計画というものは、学識経験者その他の議論の末に制定されたものですから、それを尊重するというのが、まず一番の立場だと思います。ただし、その考え方を尊重しつつも、時代状況の変化を加味するということは、これは当たり前のことではないでしょうか。

○立川委員 それは十分理解できますので、それを理解した上で、この計画も生かすよ。そしたら、別で小中一貫動かすよという解釈でよろしいんでしょうか。この設立ですね。検討委員会もPTAだとか、いろんな方が2年ほどかかってされていますけど、せっかくされたものが、途中で、意識として切れるような状況に感じられるんです。27年7月に教育大綱を決めて、全ては子供たちのためにということで、27年10月には小中一貫基本計画を出されて、それが両方いくんであればあれですけども、このロードマップを見ても、切れたようになっているんで。その辺の解釈だけのことなんですけど、おっしゃるように、それも生きていますよというんであれば、ここはちょっと残してほしいんですけど。この再編整備は生きていますよ。具体的に言えば、後期28年から32年は、西鶴山と三石の小・中、それから東鶴山は残っていますけど、これについては、あくまで満たさない。いわゆる適正化を実施しますよという計画は生きているけども、昨年の10月に小中一貫校の基本計画ができた。むしろ、その計画を中断して小中一貫のほうへ行ったんですよと聞かされるほうがわかりやすいですし、各中学校区で設置の懇談会をしますよ

ということでもお聞きしているんですが、その辺の解釈の仕方を明確に教えていただきたいんですけど。

○杉浦教育長 計画はもちろん尊重しつつも、やはり私自身が納得して、その基本計画も、実行するなら実行する、中断するなら中断するという判断をしたいわけです。そのためにも、懇話会の席上できちんと地域の皆さんの意思を確認した上で、中断するなら中断するという意思決定をいたします。現状では、小中一貫を優先するということです。

○立川委員 わかりました。小中一貫の基本計画は優先させますよ。整備計画はちょっと待ってくださいねという解釈でいいわけですね。

それで、日生南小学校はことして閉校ですよ。閉校式で一応切りにされるんですかね。

○杉浦教育長 3月31日をもって正式に閉校ということになります。

○鵜川委員長 ほかに。

○橋本委員 教育長に、まずもってお尋ねしたいんですけど、平成28年度の予算に、かくも盛りだくさんの新規事業、大変な事業量で、例えばフューチャースクールであるとか、産学官によるタブレット端末用ソフトの開発であるとか、陰山メソッドを展開するだとか、備前まなび塾も改革推進するだとか、英語教育をどうの、それにまた、今までの既存の学校支援地域本部の活動の推進、放課後児童クラブの充実なりというようなことで、本当に盛りだくさんのことがうたわれておりますが、もう少しスローペースにできないものでしょうか。これは全部、教育長の方針なんではないでしょうか。

○杉浦教育長 お言葉でありますけども、私はこれでも遅いと思っております。誰かに言われたということではなくて、1年間、外の状況も含めてさまざま勉強してきて、教育の町を名乗れないぐらい、もっともっと取り組むべきことがあるという認識なんです。これは実は、私の思いのごく一部です。そういうこともあって、もっとゆっくりという御意見、本当にごもっともだとも思うんですが、そのために、今までのように、ある日突然降ってくる方式ではなくて、きちんとロードマップも、保護者を入れた形で、現場の先生方も入れて協議をして、各学校の了解も得て、フューチャースクールに関しても我々が勝手に進めているのではありません。それぞれの学校にきちんと事前に打診をして、その上で、こういう形だったらできるねというところをきちんと各学校で納得していただいて進めているわけです。もちろん各学校単位での賛否両論はあるでしょう。100%ということはありませんから。ただ、我々としては、例えば午前中の予算決算審査委員会の分科会でも教員の負担のお話がかかり議論されたと同っておりますけれども、それについても、さまざまな対応例というのが先行事例でありますから、そういったところで、負担軽減を最大限図っていきながら、やはり学校として決定されたことを、ぜひ議員の皆さんにも尊重していただきたいなというふうに思っているところです。

早過ぎるという御指摘は肝に銘じて、くれぐれもそれぞれの事業において拙速にならないようにということをご心掛けてまいりたいと思っております。

○橋本委員 そういう中で、以前のこの委員会で、教育ロードマップの提示を受けました。その中で、例えば1番の学力の向上に関して、仮称備前学力向上ガイドラインをベースに取り組みを構築するんだと。このガイドラインはいつごろ示されるのかというたら、それはまだわからない。もっと具体的な学力向上のためにこうするんだというようなことを一つ一つ押さえていかんと、ただかけ声だけに終わってしまうように思うんですけれども、いかがでしょうか。

○杉浦教育長 ガイドラインという名称ではありましたが、本日お渡ししている資料の中に、備前市の学力向上についての資料でお示しをされていると思いますが。生きる力を身につけた備前の子の育成と。決して、そんな地に足のついていない取り組みをしているつもりは全くありません。

○橋本委員 そういう中で、例えば英語教育の推進の中で、ALTを相当ふやすという計画のようですが、これらの対象の学年、小学校は何年生からなんのでしょうか。常々この英語教育というのは、5歳の壁というのがあって、早く始めれば始めるほど、英語になじむよと。だから、他の先進地の事例では、幼稚園の段階で英語教育を物すごく推進している。そういう私立の幼稚園が物すごく注目を浴びていると。私はそういうところに特化してやるんだったらいいんだけど、一般的に中学校のALTの数を少々ふやしても、ある教育関係者とも議論したんですけど、そんなの余り変わらんよという否定的な意見が多かったんです。もっと私が言うように、低年齢を対象に英語教育をとというようなことは、教育委員会のほうでは考えられませんか。

○磯本学校教育課長 ALTの対象ということですけど、学習指導要領で正規にいくと、今は5、6年生のみです。実際には、学校へ週に1日あるいは隔週で1日入っている状況です。5、6年生はそれ1時間ずつですから、その中で授業をして、あいた時間を3、4年生であったり、1年生の教室へ入ってという状況なんですけれど、拡充することで、授業だけじゃなくて、平素の休み時間であるとか、あるいはほかの活動の時間、ほかの授業の中にも入っていただくことで、英語に触れる、英語を話す機会であるとか、あるいはかかわる機会というのがふえていくということで、小学校においては、実際にしゃべる機会がふえるというのを考えております。

○橋本委員 そういったことじゃなくて、小学校は何年生から、英語を授業とかそういったものに導入していくんだという確固たる計画がおりますかということです。

○磯本学校教育課長 これは学校としっかり話をする必要があるんですけど、今の段階では、学習の中で取り入れようとする、教育課程の中に入りませんので、どうしても教育課程の特設校の制度を活用しないとできません。現在、幾らか打診して、それも考えたいんだという反応をいただいている学校もありますので、そのところで、1年生から取り組んでいくような形にできたらと考えております。

○橋本委員 そういった中で、これは赤磐市だったかな。放課後、ALTとか、英語に堪能な方が、有償かボランティアかどうかわかりませんが、放課後、子供たちに放課後英語塾とかというような格好で、無償でそれを教える。そしたら、子供たちが物すごく喜んで、楽しんで英語を

身につけるといふ、そういう取り組みをされている。ああこれいいなと思ったんですけども、備前市は学習指導要領だ何だかんだというけど、要は、早く低年齢のときに、もっと英語になれ親しんでいただくという意味で、小学校の1年生ぐらいから、あるいは場合によっては幼稚園からとかいうようなことは考えられませんか。

○磯本学校教育課長 何年生から取り組むのかということで、そういう形でしたら、十分に考えております。放課後ということも考えておりますし、休み時間も考えています。ただ幼稚園ということになると、幼稚園の担当はこども育成課に移っていますから、こども育成課からの要望がということでしたら、十分に検討させていただきたいと思います。

○橋本委員 ということは、放課後ということになれば、小学校の1年生ぐらいから、この英語教育を展開していきたいという方針だということ認識しといたらよろしいでしょうか。

○磯本学校教育課長 もちろん正式な授業ではありませんので、十分可能です。

○橋本委員 それから、現在の学校支援地域本部の活動や、あるいは放課後児童クラブの拡充が物すごく学力向上に結びついてくると思うんです。最近、余り言われなくなったんですけど、今の市長は、岡山県下で小学校も中学校も学力テスト5番以内にするんだということを公言しとるわけです。私は、それに向かって、もっと具体的にどういったことをやったらそれが達成できるんかということ、教育委員会内で議論してほしいんです。定住人口をふやすという意味では、学力の水準というのは大きな大きなファクターなんです。備前市に行ったら、公立の学校が余り成績よくないからやめとこうというようなことを、保護者が思ったらだめなんです。だから、私はもっともっと頑張りたいと思うんですけど、教育長、いかがでしょう。

○杉浦教育長 私自身も議員と同様、まだまだ対応が足りないというふうに思っております。そのための今回の予算であると考えていただきたいと思います。第一歩ですから。長い間かけて低落してきたわけです。それをある日、ある年、いきなり上げろと言われても、これは無理なことで、特に幼稚園対象ということになれば、こども育成課ときちんと連携して、幼稚園の先生方の理解を得ながらきちんと入れていくといったことも、将来的にはやっていきたいと。それこそ、わかりません。次の補正で御提案するかもしれませんし、なるべく早く、そういった連携をもとに、低年齢での英語教育というのは、私の中ではやりたいというふうに思っております。

○鶴川委員長 ほかに。

○森本委員 英語教育なんですけど、私はできないので言われる方は立派だと思うんですけど、英語の発音について、やはりちょっと精通されている保護者の方からは、先生によってちょっと格差があるんじゃないかというのを最近よく聞きます。それで、受験に関しては、リスニングのテストが、今必須で入ってきているので、そこら辺は今後どのように対応されていこうと思っておられますか。

○杉浦教育長 1つ、タブレットを活用するということも、きちんと正しい発音をいつでも聞くことができる。特に、持ち帰りができるようになれば、そういったところで学習することがで

きるということと、すぐれた学習ソフトも、今中学校のタブレットにしか入っていないものを、小学生用にも入れたいと考えておまして、そういう洗練された発音というんですか、それを聞く機会をとにかくふやしていくということが大事ではないかなというふうに考えています。

○森本委員 私も教育長と一緒に、タブレットは活用していただきたいと思うんです。やはり音声で聞くというのは、テストで必ずありますので、ふだんからそれになれていくというのは受験にも必要かと思えますから、ぜひそのような方向でいていただきたいと思えます。

○杉浦教育長 委員おっしゃるとおり、私も思いは一つであります。推進してまいります。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、以上で所管事務調査を終わります。

これをもちまして厚生文教委員会を閉会いたします。

皆さん、大変御苦労さまでした。お疲れさまでした。

午後3時13分 閉会